



俳優・アイドル・タレント

豊田ルナさん

清く、正しく、剛く
『誰かのため』に挑戦を

「自分のお芝居やパフォーマンスを見た人が『楽しかった』、『心を打たれた』と思うように、誰かの感情を動かすことにとてもやりがいを感じます。」と話すのは、深谷市出身で俳優、アイドル、タレントと幅広く活躍する豊田ルナさんです。

5歳から芸能活動を始めたという豊田さん。芸能界に入ったきっかけは、「誰かの前に立つことが好きで、自分から『やりたい』と言ったことがきっかけです。」といいます。

『清く、正しく、剛く』を座右の銘とする豊田さん、活動をする上で大切にしていることを聞くと、「これまで楽しいことばかりじゃなかったからこそ、人に対して思いやりを持ち、どんな時

も初心を忘れずに、自分だけじゃなく、周りの人も楽しめるように活動しています。」と話す言葉の裏には、小さい頃から挑戦してきた、さまざまな現場や何千回ものオーディションの経験がありました。そして、「誰かの憧れの人になれるように、どんな事でも一つ一つ、最後までやり遂げながら、チャレンジしていきたいです。」と、今後の活動への熱い思いを語ります。

「家族やスタッフ、ファンの皆さんの応援や協力があるから自分の好きな活動ができています。だからこそ、『誰かのために！』これからも頑張っていきたいです。」と力強く話す豊田さんの、さらなる挑戦と飛躍に期待が膨らみます。



▲4月5日に深谷テラスパークで行われた寄居警察署の『春の全国交通安全運動出発式』で一日警察署長を務めた豊田ルナさん

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか 散歩

143 六堰頭首工

今回は、『六堰頭首工』に来たよお。ここは、川をせき止めて、農業用水を用水路に取り入れる施設で、深谷市、熊谷市、行田市、鴻巣市の約3,820ヘクタールの水田に農業用水を送ってるよ。一番水を必要とする田植え時期には、最大で毎秒約17立方メートルを取水していて、これは、学校のプールが20秒程度で貯まるくらいの水量なんだってえ。



▶水が勢よく流れているここは『土砂吐きゲート』。荒川の水位を一定に維持する役割があるよ。ゲートの横には、魚の行き来を妨げないように、階段式の魚道(魚の通り道)も設置されていたよお。



◀こっちは『洪水吐きゲート』といって、荒川をせき止める役割があって、台風などで洪水が発生した場合は、このゲートを開けることで下流へ流す水の量の調整をするんだってえ。



ふっかちゃんの
つぶやき

新1万円札が発行して1年が経つねえ〜！
きっと栄一さんも喜んでくれているはず★
みんなで一緒にお祝いしようねえY(o≡w≡o)Y



▲この大きな設備は川から水を取り入れる『取水口』。下の部分には用水路にゴミが流れ込まないようにするための装置があるよお。



『農業』で

深谷を元気に！

アグリテックアワード受賞企業による製品の実証実験が始まりました

深谷市では、アグリテック（農業＝Agricultureとテクノロジー＝Technologyを組み合わせた造語）企業が集積する農業版シリコンバレー『DEEP VALLEY』を実現し、『儲かる農業都市ふかや』を目指しています。その取り組みの1つとして、毎年、『Agritech Award』を開催し、さまざまな企業から日本全国が抱える農業課題を解決する技術の提案を募集しています。

そして、『Agritech Award 2023』で、株式会社セブン-イレブン・ジャパンから、農業の人材不足解決を目指すサービスの提案があり、その後、市内の農業現場でヒアリングなどを行いながら、サービスの開発が進められてきました。このたび、株式会社セブン-イレブン・ジャパンが、空き時間に農業を行いたいかと人手不足に悩む農家をマッチングする、スマートフォン向けのアプリ『くろっぷGO』(右図参照)を開発し、実証実験を行います。

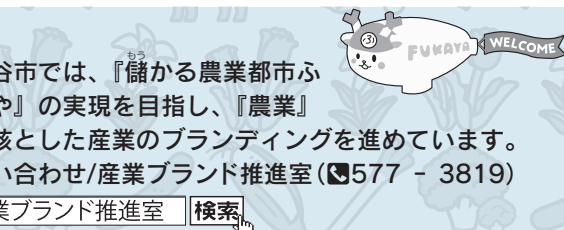
■『くろっぷGO』実証実験参加者募集

対象 農作業の人手不足に困っている農家、空き時間に農業を行いたいかと

とき 令和8年2月28日(土)まで

参加方法 農家＝くろっぷGO農家版から

登録して仕事を依頼、農業を行いたいかと＝求人一覧から応募



深谷市では、『儲かる農業都市ふかや』の実現を目指し、『農業』を核とした産業のブランディングを進めています。問い合わせ/産業ブランド推進室(☎577 - 3819)産業ブランド推進室 検索



深谷市アグリテック交流施設『アグリ:code22深谷』をご利用ください！

アグリテック交流施設『アグリ:code22深谷』は、農業生産者とアグリテック企業のマッチングを行うなど、農業課題の解決に向けたさまざまな取り組みを行っています。

利用は無料です。お気軽にご利用ください。

開館時間 午前10時～午後6時(土・日曜日、祝日を除く)

ところ 本住町3-3

問い合わせ ☎080 - 3439 - 3591

心の広場

人権はなくすためにあるんじゃない

八基小学校4年(現5年)
吉岡 壮佑 さん

ぼくは、人権朝会で人権について学びました。人権は、みんな一人一人が幸せに生きることなのかなと思いました。

ぼくは、友達がけんかをしているのを見たことがあります。最初は、ふざけ合っているだけかなと思っていたら、だんだんきけんじょうきょうになってしまいました。ぼくは、すぐに先生に伝え、かいけつしてもらいました。友達は、

「ありがとう。」と言って、だれもけがをせず、その後はなかよくすごしていました。そして、みんなが笑顔になりました。ぼくも、友達の「ありがとう。」の一言で心が気持ちよくなりました。

また、電車に乗って出かけた時に気づいたこともありま。ぼくが乗った車両に、お母さんが赤ちゃんをだっこしているマークをつけたカバンを持っている人がいました。ふしぎに思って調べてみたら、「マタニティーマーク」とあ

って、にんしんしている人がつけているマークということが分かりました。また、長方形で＋とハートのかいてあるマークをつけている人もいました。これは、「ヘルプマーク」といって、えん助やはいりょを必要としている人がつけているマークということが分かりました。

みんな一人一人が幸せに生きるためには、助け合うことが大切だと思います。友達が、困ったりなやんだりしているときには、積きよく的に声をかけたいと思います。また、どうしたら友達を助けてあげられるか考えて行動していきたいです。

学校い外の場所でも、マタニティーマークや、ヘルプマークをつけている人を見かけたら、その人が安心できる方法を考えていきたいです。

人権朝会のときに校長先生が、命は時間であると教えてくださいました。その大切な時間を自分のためだけではなく、友達や困っている人のために使っていきたいです。みんなが一人の人権をなくすのではなく、みんなの人権が、守られるクラスを作っていきたいです。

